

2004年(平成16年)6月10日(木曜日)

言 菅 桑 斤 乃 門

三田



里山保全活動を行う「三田里山どんぐりくらぶ」のメンバーたち

多彩な取り組み実る

「里地里山保全活動コンテスト30」（読売新聞社主催、環境省共催）に、県内でただ一つ選ばれた三田市のボランティアグループ「三田里山どんぐりくらぶ」（四十人）。メンバーは「みんな力で合わせた取り組みが認められた。今後の励みになる」と喜んでいいる。表彰式は十二日に読売新聞東京本社で行われる。

コンテストは、里地と里山の保全に努めている団体を顕彰しようと、応募があ

里地里山保全活動コンテスト30

三田里山どんぐりくらぶ

った全国百六十一団体から三十団体を選んだ。同グループは、市が開いた里山管理体験教室「森の学校」の修了生たちが「里山を守り育て、楽しみを広げよう」と一九九八年に結成。メンバーは会社員や主婦、高校生、高齢者らで、会社勤めしながら代表を務める彦根宏道さん(57)

毎月一回、「高平ナナマツの森」や「観福の森」を拠点に活動を続けている。これまで、間伐や散策道整備、下草刈り、ため池にシヨウブを植栽してのビオトープづくり、間伐材を使

った炭焼きなどに取り組んできた。地元の人たちとともに、マツタケ山の再生にも挑戦。今後も、他のグループとの交流や里山案内（インタープリター）の認定、森のコンサートの開催などを進める。

な自然が好きなのは、やっぱり。それぞれ楽しみながらやっています。一生懸命さが認められてよかった」と話し

「みんな自然が好き、楽しく」